

一般社団法人日本インプラント臨床研究会 創立40周年記念大会の報告

日時：平成26年4月19日（土）・20日（日）
場所：東京ミッドタウンホール&カンファレンス



若井広明（東京都）

去る平成26年4月19日・20日の2日間に渡り、東京ミッドタウン ホール&カンファレンスにおいて「一般社団法人日本インプラント臨床研究会創立40周年記念大会」が行われました。

2日間の日程で初日午前にJapan Session, 午後にはAsia Session, 2日目Dentsply Implants 特別講演会World Session とDH Sessionを盛大に行うことができました。そこで今大会の実行委員としてご報告いたします。

Japan Session

初日午前には当会恒例の全員発表研修会のスタイルを用いた講演会をJapan Sessionと銘打ち行いました。

講演が始まり、まず驚いたのは映像の美しさでした。今回運営に協力していただいたM Link社の樋口さんの話しではかなりの解像度のものを用意していると聞いてはいましたが、スクリーンに映し出された映像は想像を超え、どの講演も今までに見た事のない美しさでありました。またそこに映し出さ

れる症例の数々に私だけでなく会場の参加者からは内容の完成度の高さに驚きの声が上がりました。

これは約9年前、井汲憲治会長が当会の存在意義を再確認され「聴講するだけのスタディーグループは沢山ある、当会は会員全員一人一人の実力を向上することを目的としている」と、臨床医である当会会員の技術向上を目的とした全員発表研修会で8年の歳月を経て培われたものであり、その成果の集大成のように思われた。やはり継続は力なりで知らず知らず当会会員の實力は向上し他と一線を画すものと思われた。

発表項目は多岐に渡り治療計画からメンテナンス・偶発症までどれをとってもとても身に成る内容であった。また発表者はいつもと装いが違いスーツ姿でとても凛々しく発表時間も厳守され学会並み、いやそれ以上のものではあった。

余談であるがこれもまた長年培われた田中譲治専務流のプログラム選定の流石である。ここで皆様をお願い申し上げますが演題・抄録提出の遅れが田中





専務の睡眠時間を減らす故、今後の全員発表研修会では期限内の提出をお願い申し上げます。

今回総勢101名の発表がありました。この数の発表者がいることが当会の底力と感じたすばらしいセッションでありました。

Asia Session

アジア口腔インプラント学会は当会がアジア諸国の先生方の協力を得て守り育ててきた学会であります。

この会は1974年当時、当会の創設者乙部朱門先生がアジアのためのインプラントの研究のため設立しました。この学会も今回26回大会となり36年の歴史を持ちます。この度本大会の大会長をアジア口腔インプラント学会会長である深井眞樹先生から仰せつかりこの会の歴史に名を残せることは大変名誉なことでありました。

今大会では国内外から著名な先生方にお集まりいただきました。25分という短い時間ではとてももったいなく思う先生ばかりで、講演頂く先生方にはテーマを絞ってお願いしました。

A会場では高橋哲先生、河奈裕正先生、嶋田淳先生、矢島安朝先生、lin Ye先生、Dong-Seok Sohn先生に外科パートをテーマにご講演いただきました。

またB会場では榎本紘昭先生、西堀雅一先生、Paul P Lin先生、鈴木真名先生、弘岡秀明先生にソフトティッシュマネージメントをテーマにご講演いただき、私も井汲憲治会長の計らいで発表の機会を頂きました。臨床の熱意にいつも感銘を受けている先生方に混じり発表させて頂いた事は大変貴重な経験であり今後の励みになりました。

またC会場では補綴パートをテーマに飯島俊一先

生、田中譲治先生、桑田正博先生、中野喜右人先生、Henry Ho Kim Lung 先生、武田孝之先生のご講演がありました。内容は言うまでもなく、さらに臨床の励みになるワクワクするようなそんなプレゼンテーションの数々でありました。

World Session

今回Dentsply IHの協力の下、現EAO会長Pascal Valentini先生、またDaniel Thoma先生、Orcan Yüksel先生をお招きいたしました。最新のトピックスを加えた過去を踏まえた発表は、最善の治療法を学び未来を展望できる内容ばかりでありました。

今大会の一番の目玉はやはりHenry Salama先生です。国内外で講演は何度も拝見していますがプレゼンテーションテクニックはやはり特出するものがあります。

先生はワイドスクリーンを縦横無人に歩きながらプレゼンテーションを進めそれを追うようにスポットライトが動く、何とも絵になる立ち振る舞いでありました。

実は国際学会を想定し今回このようなプレゼンテーションが行える様、ランタイムも含め講演者用に2台のモニターが舞台下に設けてあり、スポットライトも演者を左右に追えるようにしていました。

彼はそれを見事に使用して居ました。主催する側としてはとても嬉しい演出でした。内容も最新の情報を元に審美と長期症例を交え大変興味深く、あっという間の2時間でした。

この他にも本来であればご講演いただきたく思う各大学や施設長の先生方にモデレーターをお願いし大変すばらしいコメントを頂くことができました。

DH Sessionでは安生朝子先生、加藤典先生にお願ひし満員の会場が熱気で包まれていました。

今回、本大会の実行委員として井汲憲治会長、田中譲治専務、笹谷和伸先生と約20回に及ぶ委員会を平日の夜19:30から開催してきました。特に遠方の先生は診療を休診にして準備委員会にお集まりいただきました事をご報告いたします。

また前日と当日にお集まりいただいた準備委員の先生方や当会理事、各委員会委員長の先生方に改めて感謝申し上げ「一般社団法人日本インプラント臨床研究会創立40周年記念大会の報告」とさせて頂きます。